

武蔵野市第四期長期計画調整計画策定委員会（第2回）会議要録

- 日 時 平成19年4月26日（木曜日） 午後7時から午後9時40分まで
- 場 所 スイングホールスカイルーム
- 出席者 田村委員長、酒井副委員長、山本副委員長、栗田委員、栗原委員、小原委員、前川委員、向井委員、村井委員、会田委員
企画政策室長、企画調整課長、企画調整課副参事（行政経営・評価担当）、企画調整課副参事（新公共施設開設準備担当）、傍聴者9名

1 開 会

2 議 事

（1）議事録の確認

【事務局】既に事務局より要録を送付しているが、本日再度確認いただきたい。異議がないようなら、HPに掲載したい。

【委員長】異議はないか。

〔異議なし〕

【委員長】異議がないようなので次の議題に入る。

（2）調整計画の役割と位置づけ

【委員長】この委員会で何を作るのか、長期計画、調整計画とはどういうものか、ということ事務局より説明願いたい。

【事務局】基本構想、長期計画、調整計画、討議要綱について、仕組みを説明する。基本構想は地方自治法により、市町村に策定が義務づけられている。制定には議会の議決が必要とされ、現在の第四期基本構想は平成16年12月6日に議決された。通常は基本構想の理念のもとに、長期計画を定めているが、本市の場合は、長期計画のエッセンスを基本構想としているという特徴がある。

次に、長期計画について説明する。第四期長期計画は、平成17年度を初年度とする10カ年の計画だ。この計画は、前半5カ年の実行計画と後半5カ年の展望計画に分かれている。計画を実効性の高いものにするためには、財源的な裏づけがなされていなければならない。ある程度、歳入・歳出が見通せる前半の5カ年を実行計画と位置づけて、財政計画とリンクをさせている。そして、実行計画終了後、財源の余裕ができた時にはこういうこともできるだろうという、長期的戦略ビジョンの概括を後半5カ年の展望計画として位置づけている。

次に、ローリングと調整計画について説明する。長期計画を常に実効性の高いものにしておくためには、メンテナンスが必要である。今までは市議・市長選挙が終わった後、策定委員会を設置し、次の財政的な裏づけを持った実行計画の策定を行っていた。当初立てた5カ年の実行計画を4年経ったら見直し、5カ年の計画を作る。4年実施したらまた見直しを繰り返すことにより、常に社会情勢の変化に対応

し、財源の裏づけを担保していく。これをローリング方式と称している。今回の第四期長期計画も、平成19年の市議・市長選挙が終わってから策定作業に入る予定であったが、平成17年10月の市長選挙に伴い、市長公約との整合性、この間の社会情勢の変化に対応すべく、ローリングを1年前倒しして行っている。

次に、調整計画について説明する。今回の策定は、市議会で議決された第四期基本構想に基づいて、社会情勢の変化等に対応した修正を加える「調整計画」である。基本構想という一定の枠があり、議論の対象は、長期計画の体系図の中に「基本施策」「施策」として記載されている「目的」を達成するためにはどうしたらよいか、社会情勢の変化や、市民、議会あるいは市の考えを総合的に勘案し、優先順位をつけて、ここに記載されている「事業の体系をどのようにするか」ということである。また、「事業」として記載されているものは、アクションプランとして個別計画があるものも多いため、個々具体的な事業を云々というより、方向性を議論いただきたい。また、調整計画の開始年度は平成20年度のため、現在進行中の事業については、今後のまちづくりを考える題材としての議論はかまわないが、特定の問題をどうするという議論はなじまないと考えている。

最後に討議要綱について説明する。今回の調整計画の素案を作るに当たり、課題を柱建てに整理し、必要な情報を資料として加えたうえで、市民、議会、市長、職員など様々な方からの策定委員会への意見を集約し、議論をしやすくするために作成する冊子である。策定委員は討議要綱をもとに、市議会各会派、市民団体、市民会議、教育委員会、市職員などと議論を行い、また広く市民意見を募集する。そして、これらの議論、意見を参考に調整計画案の作成に入る。

【委員長】調整計画とはどのようなものか。例えば、市民会議を見ると、現在起きている問題についても議論をしている。これを調整計画に盛り込むことは、限界があるかもしれない。討議要綱のここ数回の傾向は、計画案にほぼ等しいかたちで出されている。しかし、第二期長期計画第一次調整計画においては、市民に問いかけるような形式で作成されている。私見ではあるが、このような形が良いと思う。討議要綱をどういうスタイルにするのかは、いずれ問題になってくるだろう。本日は、各委員に質問、議論をお願いしたい。

【委員】市民会議の中で、現在進んでいる計画とのギャップが問題となった。スタートしているものと追っかけていくものとの修正が、どういうかたちで整理されていくのか、興味がある。

【委員長】計画のあり方として、今回長期計画を大幅に変えるという選択肢があっても良いと思うが、できれば小修正ぐらいが望ましいと思う。もちろん、市民にとってわかりやすい計画でなくてはならないので、そのために大幅に変更をするという可能性もある。

【委員】我々の分野でも、同様なこと（現在起きている問題）が話し合わせ、提言に盛り込まれてきたのでその点は考えたい。討議要綱については、まだ時間が

あるので、今後の話し合いの中で決めていっても良いと思う。

【委員】現在行われている施策で、市民のニーズと乖離しているものが多い。そうしたものを市民ニーズに基づいて調整していくことが必要だ。そうするためには、現在行われていることに対して触れないわけにはいかない。策定委員会にとって現状の確認は必要だ。市民会議提言書の骨子を基本に据えながら、進めていくのも一つの方法だ。

【委員長】十分考慮に入れながらすすめていく。

【委員】討議要綱の構成を検討する上で、現在の分野わけについて検討が必要かもしれない。

【事務局】分野わけについては、基本構想にかかる部分なので、今回変更することは難しいと考えている。

【委員長】調整計画と議会の関係はどのようになっているのか。

【事務局】議会には報告というかたちを採るが、武蔵野市は基本構想と長期計画の結びつきが非常に強くなっているため、丁寧に行う必要がある。

【委員長】この話は今後何回も行うと思うが、今日の話の一つの前提としながら進めていく。

（３）施政方針について

（事務局より平成17年12月と平成19年の施政方針を配布）

【事務局】実効性のある計画を策定するため、今後市長との意見交換は適宜行っていきたい。

（４）市民会議提言書について

【委員長】今日は行・財政分野、都市基盤分野の話から伺いたい。

【事務局】今回の市民会議方式は、市民同士の議論を重視し、また行政には無いアイデアを出してもらいたいということで、提言書の記述と行政が行ってきたことのすり合わせはしていない、ということをもとに議論いただきたい。

【委員】行・財政分野では、具体的な事業計画の見直しではなく、全ての根幹部分を確認して、武蔵野市の未来をどうしたらいいのか、市民が望む将来はどうかということについて議論を行ってきた。その結果として、財源の必要性、行政のかたちが重要であるという結論に至り、財源の確保、職員の意識改革・スキルアップ、市民が市政にきちんと参加できる体制づくり、という3項目に集約した提言書づくりとなった。とりわけ、[1]で述べている自治基本条例については、集中改革プランにおいて、「18年度に検討して、21年度の実施」となっているが、前倒しして、今回の調整計画に盛り込んでもらいたい、と思い一番スペースを割いたことで、行・財政分野の一番の主張とした。また提言書の補足としては、歳入計画について議論があったことを報告する。これは、歳出に関しては計画が様々あるが、歳入計画に関しては無いに等しい、ということが会議において判明した。積極的な意見として、市公共施設を活用して、歳入を増やしたらどうか、という意見があったことを

報告しておく。行・財政部会のスタンスとして、基本構想にある「持続可能な社会をめざす」ということに提言を集約していきたいと思い、提言書を作った。以上報告としたい。

【委員長】この段階で議論、質問はあるか。

【委員】歳入計画について、今後具体的にこのように工夫したらいいという議論はあったか。

【委員】歳入計画がないということは分ったが、具体的な提案までには至らなかった。

【委員】事務局に対する要望であるが、財政計画の粗いものでかまわないので、資料をいただきたい。

【事務局】基本構想に当初の財政計画を記載しているが、詳しい説明は財政課より後日説明させてもらう。

【委員】現在市のスタンスとして、自治基本条例をどのように考えているのか。

【事務局】集中改革プランでも制定の検討をうたっている。現在、先進自治体の研究を行っているが、自治基本条例は導入の過程が重要となってくるので、その点を注視しつつ、若手のプロジェクトを中心に研究している。

【委員】自治基本条例と議会との関係を伺う。市民活動から政策提案をする必要もあるが、それは市民の中の一部である。市民を代表するのは選挙の洗礼を受けた議会である、という原則は崩れない。一般市民は、政策提案を実現するためには、多大な努力を要するが、その努力において、通ってしまうような制度は作らない方が良いと思っている。議会とのバランスはデリケートな問題だと思う。

【委員】市民の代表である議員は、我々の思いを共に具現化してくれる人たち、という認識を持っている。言いたい点は、市が持っている情報や知識と市民が持っている情報や知識とでは、相当な違いがある。それを同じ土俵に上がって、議論するというのは無理がある。まず、市民がしっかりと情報を入手できるシステムをつくり、市民が個々で理解し、咀嚼して自分の意見を出していけるシステムができていない限り、市民協働はできないと考えている。自治基本条例を早く作り、市民の権利と考えていく土台づくりが必要と考える。

【委員】特区制度について議論ができたようだが、どのような議論があったのか。

【委員】農業や子育て、介護をする人に対する税の優遇について議論があった。

【委員】武蔵野ブランドというのは、商業的なブランドではないのか。

【委員】商品のブランド化ではなく、若い人が住みやすい、吉祥寺ブランドのようなものを市内全域に広げていきたいということだ。

【委員長】次に都市基盤の説明をお願いする。

【委員】報告書の内容として、ある程度オーソライズされたもの、議論が深まっていないものなど雑多なかたちになっている。レポートも各グループから上がってきたかたちでまとめているので、書き手としては8名以上だ。最後に全体として対

立するもの等あったが、両論併記というかたちをとった。概ね12ページから29ページあたりがオーソライズされた考え方と言える。基本的な考え方として、「歩行者と自転車が安心して移動できるまちをつくる」とし、今までの道路整備が都市施設としての整備であったのに対し、ネットワーク整備の中心に転換するべきだとした。日頃から道路の危険性について考えている委員が多く、こういったところで総合的に施策にしていくという意見があった。また、自転車に対して、道路整備の中でどのように位置づけていくかという議論があった。さらに、会議の中で意見がおおむね一致していた事項は、下水道整備に関する提言である。去年豪雨により、保育園が床上浸水したことを受け貯留施設を設置したが、数十トンあるいは数百トンの一時貯留を設けるのではなくて、もう少し総合的に考えるべきであろうという意見が出た。会議の中では地震対策よりも水害に対しての対策をするべきだという意見が強かった。

【委員】感想として、自転車に関する記述がしっかりされていたので、調整計画に反映させられれば、武蔵野市の生活道路もよくなるのではと思う。いささか不満に思ったのは、「公共施設の再編問題」について具体的な記述がされていないことだ。例えば、市民会館の新たなあり方を都市基盤分野の市民委員はどのように考えているか知りたい。

【委員】どの提案を一番に位置づけたいのか見えない部分がある。プライオリティーについてはどうか。

【委員】私見としては、道路に関する関心が高かったと思われる。この先、取り組まなければならない課題と感じていたのは、上水道だ。地下水を守って、おいしい水を供給し続けなければならないという認識は一致していると思う。また、財政負担の観点から、それらの更新についても議論があった。また、平和の話については、関心が高かったが、平和のための施設を何か作ろうという話にはならなかった。

【委員】まちづくり協議会というアイデアがあったが、コミュニティ協議会との関係はどう考えているのか。

【委員】提言書の中での記述は、大雑把な話になっている。コミュニティ単位の話になると逆にもっと議論してみたかった、という気がする。

【委員長】両分野を通じて印象はどうか。

【委員】刻々と情勢が変わる中で、どの程度まで具体的に調整計画に書き込むか、など位置づけはまだ厳密に決めない方がよい。

【委員】市長の施政方針で子育てにお金をかけたい、という記述がある。行・財政分野の提言書の中で、高齢者中心の施策から、子育て世代にとっての武蔵野ブランドの創設がうたわれていたのは大変共感が持てた。また、都市基盤分野の住宅施策の総合的推進の中で、若年ファミリー世代定住の推進もあるので、若い人が住みたくなるような武蔵野市というのがテーマに挙げられるのではないかと思う。

【委員長】今日の段階ではこういうかたちでよろしいか。次回も他の分野の方から

ご報告をいただきたい。

(5) 今後の日程について

【事務局】今後の作業については、8月上旬の討議要綱の完成に向けて、事業計画、市長へのヒアリング、市内施設の見学などの後、議論をお願いしたい。討議要綱をどのようなかたちにするかによるが、今後の日程について議論を願いたい。

【委員長】一番気になるのは、どういうプログラムで進めていくかということだ。市民会議のことは無論重視して進めていくが、計画をつくる上で大事なことは、まちの地図を頭に入れることだ。つまり、我々策定委員がこのまちをどう読むかということが大切だ。市民参加であればあるほど、我々策定委員がそれをやらなくてはならない。人口について言えば、この町にどういう人たちがどんな住み方をしているのか、そういう話を我々がデータを用いながら、どのように議論するかが大切だ。土地利用にしても、現在の土地利用の問題ではなく、今後どのように変わるか読むことがプランニングには重要だ。そのような作業を3回ぐらいはやってみたいし、それが策定委員会の仕事だ。そういうことを挟んで、市民ヒアリングを行うなど、プログラムが欲しい。それをやらなければ、討議要綱のかたちも議論できない。

【委員】委員長の意見に賛成だ。一人ひとりが武蔵野の町をどう描くかが、大事だ。

【委員】武蔵野市にどういう人が住み、どういう住み方をしているか共有できないと計画の策定はできない。

【事務局】そういうことであれば、委員長、副委員長と調整させていただきたい。次回は、5月15日開催ということにさせていただきたい。その次は29日ということになる。6月は各委員仮押さえということで、6月5日、15日、22日、26日、29日として、近いうちに日程を確定していきたい。

(6) その他

【事務局】次回は、5月15日（火曜日）19時から、スイングホール10階スカイルームで開催する。